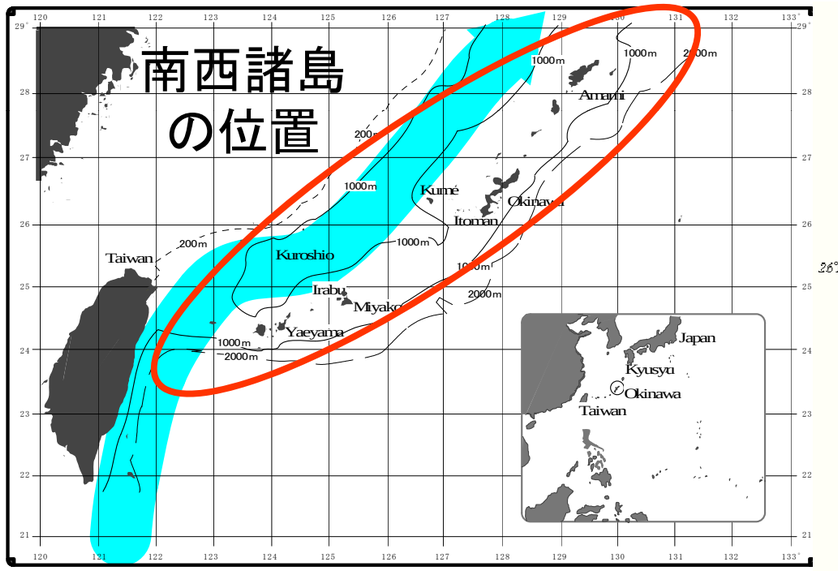
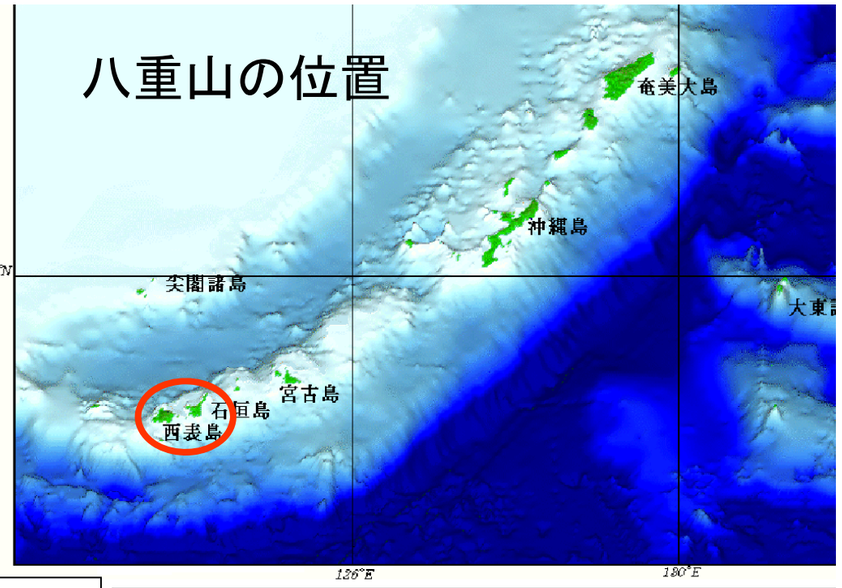
八重山における
オニヒトデ駆除活動
2010年9月19日
八重山漁業協同組合

與儀正

サンゴ礁漁場の漁業：

潜水器漁業、一本釣、刺網、
篭、追込網、小型定置網など
様々







サンゴ礁のかく乱要因

人為的：赤土・過剰栄養・化学物質の流入，埋立，浚渫，サンゴの違法採取，漁業・養殖，過剰な観光利用

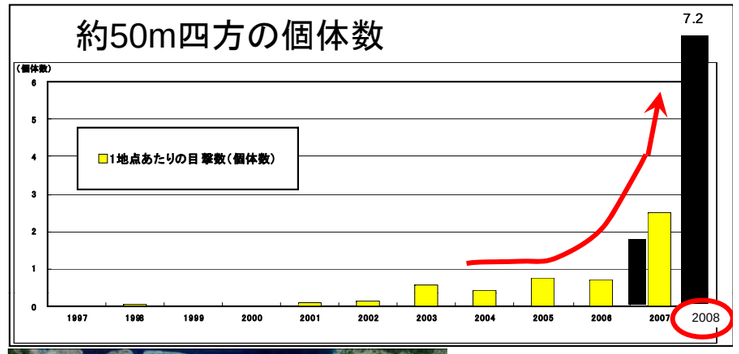
自然的：台風，大規模白化，海洋酸性化，オニヒトデ・貝類の食害，病気

八重山では？

2007年の白化、赤土、台風等

現在は

オニヒトデが最大の脅威

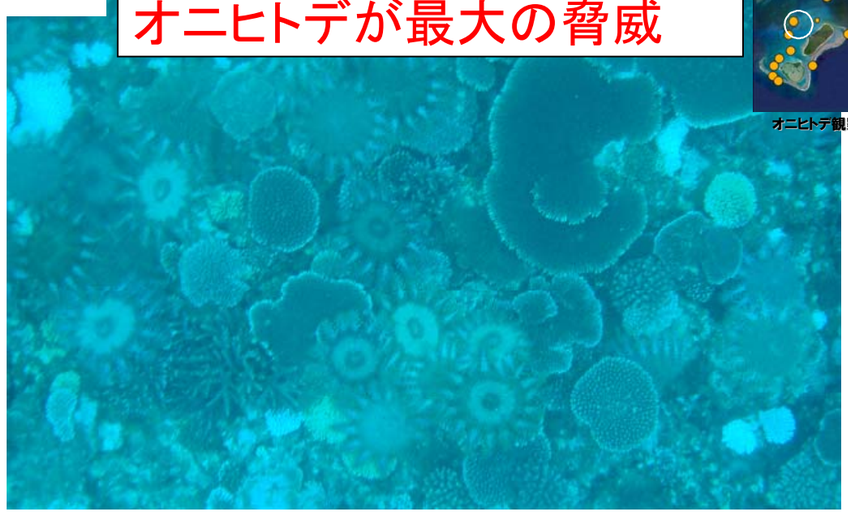




オニヒトデ観察個体数/1人とその変化（'07年12月→'08年8月）

駆除数では、2008年は2007年の20倍の6.5万個体、2009年では9.6万個体となった。







全海域を守ることは不可能
駆除する海域をしぼる！

オニヒトデ駆除海域選定の3つの基準

1. 「守るべき」---貴重なサンゴ群集、幼生供給源となる等
2. 「守りたい」---ダイビングポイント、産卵場等
3. 「守れる」---冬場の時化でも継続的に駆除できる等

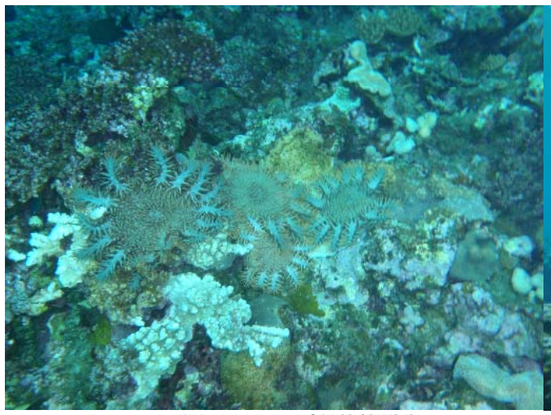
慶良間と八重山の違い

1. 八重山海域は慶良間より圧倒的に広い。
2. サンゴは多いがオニヒトデが少ない海域がある。
3. 漁業者とダイビング業者で守りたい海域が異なる。

漁業者は産卵場を守りたい

2008年開始の資源管理：禁漁区

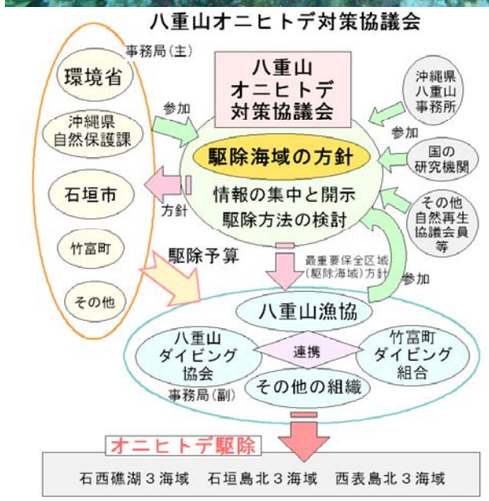






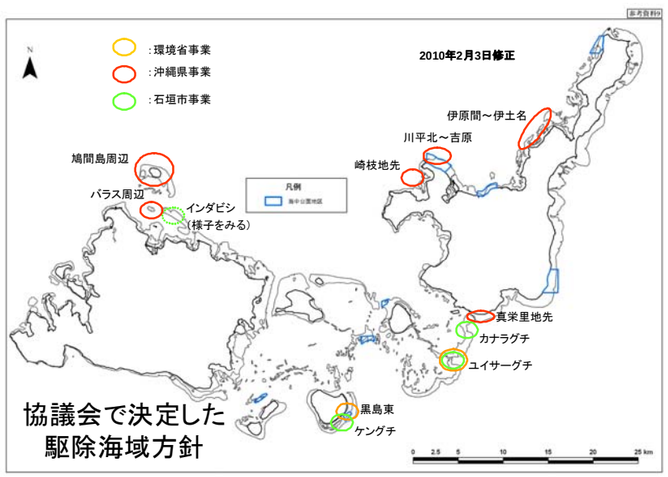






平成21年8月18日設立
会長：八重山漁協青年部長

副会長：八重山の水産業普及員



1980年代のオニヒトデ大発生により、一部の海域を除いて八重山海域のサンゴはほぼ壊滅した。その後サンゴは回復したが、赤土汚染や台風、特に2007年の大規模白化現象で八重山のサンゴ礁は傷んできている。これに追い打ちをかけるように、現在、再びオニヒトデが大発生している。3個体以上見つかれば異常発生とされる調査方法で、2006年以降、発見数は指数関数的に増加し、2008年では平均7.2個体となった。2009年に入って、昼間にサンゴの表面で捕食行動をとるだけでなく、一列に前線を作ってサンゴを次々と食べながら進む海域も見られるようになった。サンゴ礁を基盤とする八重山の沿岸漁業、観光業にとって重大な事態である。

この危機的な状況に対処するため、環境省、沖縄県、石垣市が駆除事業を実施している。平成21年度に始まった水産庁事業：環境・生態系保全活動支援事業は、水産業・漁村の多面的機能の発揮を目的とし、漁業者を中心として藻場・干潟・サンゴ礁の保全活動を行うものである。石垣市はこの事業を導入し、八重山漁協と連携してオニヒトデ対策を実施している。

オニヒトデ対策は、対症療法ではあるが駆除が中心となる。駆除の基本的な方針は、「守るべき」「守りたい」「守れる」という基準のもとに、重点駆除海域を絞り込むことである。様々な組織の事業を総合的・効率的に実施するため、2009年8月に八重山オニヒトデ対策協議会が設立され、対策の方針を検討している。協議会の主な役割は、予算の出所にかかわらず優先してオニヒトデを駆除する海域の選定方針を決めることである。協議の結果、それぞれの事業で石西礁湖（石垣島と西表島の間にある日本最大のサンゴ礁海域）3海域、石垣島北3海域、西表島北3海域を選定した。第2・3回協議会で若干修正があったが、現在、3つの事業ともに方針に基づき駆除活動を行っている。